中國新聞

発行所
中國新聞社
広島市中区土橋町7番1号
（郵便番号 733）
電話広島291局1111番（大代表）
郵便振替口座　広島57番
© 中國新聞社1982

広島の名酒
ヒシマサムネ
広島・可部
久保田酒造株式会社醸

反核世論の中 37周年

広島に祈りと行動

きょう「原爆の日」

世界的な反核運動のうねりのなか、ヒロシマは六日、被爆三十七周年を迎えた。爆心地近くの広島市平和記念公園では、今年も「広島市原爆死没者慰霊式・平和祈念式」が開かれ、被爆者ら約四万人が参列して、犠牲者のめい福を祈るとともに、反核への行動を誓う。

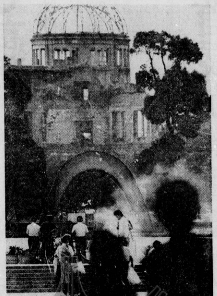
【2・3・20・21面に関連記事】

「慰霊の曲」が流れるなか、式は午前八時から始まる。荒木武広島市長と遺族代表の広島市安佐南区祇園町、会社員角山基治さん([illegible])、同市西区井口鈴が台一丁目、無職山際秀子さん([illegible])が、この一年間に亡くなったり、新たに死亡が確認された死没者名簿を原爆慰霊碑に奉納。荒木市長、八百千頭夫広島市議会議長、遺族代表、被爆者代表、首相代理の森下元晴厚相、徳永正利参議院議長、竹下虎之助広島県知事らの献花に続き、市民代表約八十人が流れ献花。

午前八時十五分ー。黙とう。被爆二世の広島市南区向洋中町、会社員山本周二さん([illegible])と同市西区中広町一丁目、塾教師市場奈美さん([illegible])の二人が、心を込めて「平和の鐘」を打ち鳴らす。一斉に工場のサイレンが鳴り、寺院の鐘が響き、市内は鎮魂と深い祈りに包まれる。

続いて荒木市長の「平和宣言」。限りない核軍拡のなか、核戦争の危機が迫っている現状を指摘し、その歯止めとして盛り上がる草の根反核運動を評価。「その熱望を受け止め、平和への道を急ぐべき」と世界に訴え、ヒロシマと心を同じくする世界の都市連帯、核保有国元首らのヒロシマ訪問、ヒロシマでの軍縮首脳会議開催などを提唱する。

現実化する核不安を背景にした反核の輪の広がりのなかで、改めて問われるヒロシマの責務と行動。「平和宣言」による具体的行動の提起と、ヒロシマを舞台とした草の根参加の原水禁運動が、果たしてどこまで世界の良識を揺り動かすかー。式後も市内ではさまざまな慰霊行事や反核行動が繰り広げられ、ヒロシマは祈りと行動の一日となる。



きょう被爆37周年。反核運動の盛り上がりのなか、ヒロシマの使命はますます重い（5日、広島平和記念公園で）

原爆死没者名簿に新たに3060人記載

〔総数は103777人に〕

六日の広島市原爆死没者慰霊式・平和祈念式で、原爆慰霊碑に奉納される死没者名簿に新たに記載された死没者は、昨年を三百七人上回る三千六十人にのぼった。これで名簿記載総数は十万三千七百七十七人になった。

広島市が五日午後五時で打ち切った死没者名簿記載受け付けによると、昨年八月六日以降、遺族らから"死亡"の届け出があったり、被爆者健康手帳が返還されたのは男千六百五十人、女千四百十人。死没年月日の内訳は、「原爆の日」の二十年八月六日死亡が百十二人、同年末までに死亡が六十三人、二十一年以降昨年八月五日までに亡くなった人が七百二十九人、この一年間の死没者は二千百五十三人、不明三人となっている。

被爆して死亡した人で、まだ名簿に記載されていない人を捜すため、広島市は昨年から全国の都道府県と市町村を通じて、名簿記載の届け出を遺族らに呼びかけていたが、今年はさらに全国各都道府県の被爆者団体にも呼びかけた結果、遺族らからの届け出分が千五十八人と、昨年（六百十八人）の二倍近くに増えた。

今年の名簿記載は七月二十一日から始まり、五日夜終了。名簿は原爆死没者慰霊式・平和祈念式の冒頭、荒木市長と被爆者代表の手で慰霊碑に納められる。

民衆の力で核廃絶

原水禁世界大会ヒロシマ・アピール

屋外集会 最大の3万人結集

草の根エネルギー結集を目指した原水爆禁止'82年世界大会は五日夕、広島市中区基町の市中央公園で始まった。"開かれた大会"を合言葉に、野外集会となったメーン大会には海外からの代表約九十人を含む過去最高の約三万人（主催者発表）が参加。内外の核被害者の訴えに続き、「核兵器完全禁止の実現へ向け、世界の民衆の総力を結集しよう」とのヒロシマ・アピールを採択した。六日は市内二十五会場で分科会を開く。

【20面に関連記事】

「軍縮・核兵器完全禁止・被爆者援護」を基本課題にした広島でのメーン大会は五日午後五時半から開会。広島実行委代表の今堀誠二・広島女子大学長が「核兵器廃絶を願う草の根運動の広がりによって、軍事費の突出反対、社会福祉充実、開発途上国への援助を求める国民的な署名運動を展開し、日本の政治を動かそう」とあいさつ。国連のプロボスロフ・ダビニチ・軍縮センター所長補佐は「第二回国連軍縮特別総会は大きな前進はなかったが、軍縮の実現に世界世論の役割が大きいことが確認された。ヒロシマは核戦争が起きたらどうなるか、世界に知らせる使命をもっている」と述べた。

この後、核実験の後遺症を抱え、放射性廃棄物の海洋投棄問題に直面する太平洋地域、反核運動の盛り上がるヨーロッパ、広島の被爆者代表がそれぞれ核被害の実態を報告し、反核を強く訴えた。

マーシャル諸島のクエゼリン環礁で、米国の核ミサイル基地反対の座り込み運動を指導しているアルビン・ジャクリックさんは「太平洋の島々は核実験、核燃料の採掘で生命、自然破壊が続いている」と強調。ベルギーのカーラ・フェラーリさんは、来年秋の北大西洋条約機構（NATO）への巡航ミサイル配備に対し、「ヨーロッパ各地で"あすのヒロシマにするな"というデモや平和キャンプが高まっている」と報告し、世界の人々の連帯の輪を広げるよう呼びかけた。

被爆者代表の中津泰人・広島県被団協理事は「被爆者は三十七年間、死の不安や貧困と長い苦難の道を歩いてきた。老齢化する被爆者はもう待てない。援護法制定に大きな力を貸して」と訴え、援護法と核廃絶を車の両輪にした運動を呼びかけた。

こうした訴えを基に、大会は人類最初の核被害地広島から世界に向けたヒロシマ・アピールを採択した。

メーン大会に先立つ市内三コースの折りヅル平和行進、訴えの合間に音楽、詩の朗読など文化行事やダイ・インを盛り込むソフトな運営で、一般市民らの幅広い交流を呼びかけた。

ヒロシマ・アピール（要旨）

私たちは人類最初の核兵器の被害地ヒロシマから人類滅亡の危機を憂うる心を込めて全世界に訴える。昨年来の反核・軍縮・平和を求める世界の民衆運動の高まりは世界史に新しい出発点をつくり出そうとしている。しかし、第二回国連軍縮特別総会は期待にこたえることなく終わった。現在、限定的、戦域的、あるいは全面的核戦争の危機が人類と文明を絶望のふちに立たせている。また核抑止論をはじめ、国際間の紛争を力で解決しようという考え方や対立する軍事ブロックの激化によって戦争を抑止しようという考え方が、現代の危機を一層増大させている。核戦争の危機が深まる中で、どこまでも反核・軍縮・平和の旗を高々と掲げ、核兵器完全禁止の実現に総力を結集しよう。私たちは決意を新たにして日本国政府、各国政府に、国連に次のことを強く訴える。

①ヒロシマ・ナガサキの被害、核実験被害、起こりうべき核戦争の被害の残虐さを深く自覚し、周知徹底を図る。

②関係各国政府はすべてのヒバクシャに対する十分な援護措置を直ちに実施する。特に日本政府は被爆者援護法を速やかに制度化する。

③核兵器使用禁止条約と包括的核実験禁止条約を速やかに締結する。

④非核地帯を世界につくる。

⑤核兵器完全禁止を最優先とする包括的軍縮計画を策定し、実行する。

⑥世界各国から外国核軍事基地の撤去を要求するとともに新たなヒバクシャをつくる原因となる核軍事基地の受け入れを拒否する。

⑦核軍拡競争が発展途上国の貧困と抑圧を生み出していること、核兵器拡散との間に深まる関係があることを認識し、周知徹底を図る。

⑧ウラン採掘や核実験によって追いたてられた先住民など核サイクルのヒバクシャたちに連帯する。

⑨各国政府は核軍縮条約の締結や非核地帯の設置に向けて積極的にイニシアチブを発揮する。

⑩これらの要求を象徴するため八月六日の広島の日に、世界中の海や川や湖で灯ろうを流し、いのちの明かりをともすこと。

きょうの紙面
《22ページ》

福山のタクシー運転手殺し逮捕（21面）
府中町で非核宣言都市シンポ（2面）
原爆投下機の米搭乗員が語る（3面）
造船6社の来春採用は大幅減（7面）
高校総体で磯崎が短距離三冠（14面）
鋼管福山、都市対抗8強入り（15面）
校庭で児童誤って首つり重体（20面）

政府広報
万一の交通事故に備える命綱
それがシートベルトです

シートベルト着用推進運動
ー8月中ー
（総理府）

教科書問題

特使派遣も浮上

首相、文相と対応策協議

鈴木首相は五日夕、首相官邸で小川文相と会談、拡大一途の教科書検定問題について、対応を協議した。

【2面に関連記事】

席上、文相が検定制度の仕組みや中国、韓国側が問題としている教科書の記述部分について詳しく説明、これに対して鈴木首相は「外務省と協力し打開策を研究して、実行してほしい」と日中、日韓の友好親善の立場から早急に対応策を練るよう指示した。

会談後、文相は具体的な対応策として中国、韓国側の真意を見極めて、打開の糸口をつかんだ上で、その後に政府特使派遣で最終決着を図る構想を検討中であることを示唆した。

席上、小川文相ら文部省側は中国、韓国両国が問題としている記述をリストアップした資料を鈴木首相に示しながら、文部省の検定姿勢、現行検定制度の仕組みなどについて詳しく説明した。

この後、鈴木首相は事態の深刻化に憂慮の念を示したうえ小川文相に打開策の取りまとめを急ぐよう指示した。これに対し小川文相は「外相も帰国し、外務、文部両事務次官の初協議も終わったので、次のステップを考えたい」と述べ、桜内外相と協議し対応策を打ち出す意向を表明、了承された。

この日午前の外務、文部両次官の協議でも、柔軟な姿勢を求める外務省と訂正に強く抵抗している文部省とが対立しているため、局面打開と事態解決のメドがつくまでには時間がかかりそうだ。

週内にもまず次官級を派遣

中・韓両国へ外務省

外務省筋が五日夜明らかにしたところによると、政府は教科書検定問題をめぐる中間的措置として今週中にも外務省の次官、外務審議官クラスの高官を中国、韓国に派遣、日本政府への打開への努力と誠意を説明することを検討している。

これは五日になって中国の呉学謙外務次官が鹿取駐中国大使に対し重ねて教科書の記述修正を求めてきたほか、韓国も国会でこの問題を取り上げるなど事態が一層深刻になったため、取りあえず日本政府が「政府をあげて真剣に問題解決に取り組んでいる」（外務省筋）ことを説明、沈静化を図ることにしたものだ。同時に打開のためどのような方途が可能か両政府の感触を探る狙いがあるとみられる。

記述の是正 正式に要求

鹿取大使に中国政府

【北京五日塚越共同特派員】教科書検定問題で対日批判を強めている中国政府は五日、呉学謙外務次官が鹿取駐中国大使を外務省に招き、文部省が先に行った説明に中国政府として正式に反論するとともに、教科書検定の誤りを正すよう再度、口頭で申し入れた。

中国側の抗議申し入れは同日午前九時（日本時間同十時）から約五十分間行われ、呉外務次官は「中国側の前回申し入れに対し、日本側からは満足できる説明を受け取っていない」と前置きしたあと、中国の立場を改めて説明。中国政府の問題のとらえ方について「日本軍国主義者の中国侵略の歴史を認めるかどうかは、日中関係を発展させるうえでの大きな原則問題である」と指摘するとともに「日本政府は教科書検定の中で起きた問題に縮小しえない責任を負っている」と述べ、政府の責任で事態を打開するよう求めた。

呉次官は最後に「中国政府は共同声明の原則を守り、両国の友好を発展させるため、日本政府に対し必要な措置を講じ、検定済みの教科書の誤りを正すことを要求する」と申し入れ、直ちに本国政府に伝達するよう求めた。

これに対し鹿取大使は「直ちに伝達する」と答えたあと「この問題については日本政府全体として真剣に検討中と聞いている」と述べた。

社説

「原爆の日」に新たな決意を

八月六日を迎えた。広島の悲願「核廃絶」には、なお展望が開けない。だが、国内・外を問わず、反核運動に力強いうねりが見え始めた。ヒロシマを粘り強く訴え続ける決意を新たにしたい。

広島原爆の日から三十七年。あの一瞬によって刻まれたヒロシマの傷跡は、肉体的、社会的、精神的…あらゆる面に広く及び、今なお深い。八月六日はその傷跡が最も痛みを増す日でもある。

いつまでも、決してい（癒）えることのない体験上の痛みがよみがえる。それ以上に、同じ悲劇が繰り返されぬ保証がいまだに得られない人類の愚かさが、被爆者の心の傷跡にこの上ない苦痛を覚えさせるのである。

広がるヒロシマ認識

広島の悲願に逆行する、米・ソ両国を頂点とする世界の核情勢については昨日の社説で述べた。核廃絶への努力を絶望に追いやりかねないほどの狂奔ぶりである。しかし情勢がいかに厳しくとも、いや、厳しければ厳しいほど、われわれは反核の決意と訴えをより強めなくてはならない。それこそが核時代におけるヒロシマの最大の責務である。

昨年以来、広島の前途に一筋の光明が見え始めたのも事実だ。ヨーロッパ各国、アメリカで相次いだ数十万人規模の反核集会は、先の国連軍縮特別総会を百万人もの民衆で包囲する盛り上がりを示した。国内でも3・21、5・23の広島、東京集会、三千万人反核署名が成功し、かつてない草の根運動の広がりが開会中の原水禁大会に引き継がれている。

われわれが力強く感じるのは単に人数の広がりだけではない。これらの動きに、ヒロシマの持つ真の意味に対する理解の深まりが伺える点である。例えば「ノー・ユーロシマ」（欧州をヒロシマにするな）の叫びにも、ヒロシマは決して過去の歴史ではない、現代に、将来に生き続ける人類への警鐘だとする、正しい認識が見える。

反核理論の確立急げ

広島・長崎が長年にわたり積み重ねた被爆の実態を広める地道な努力が、全国、全世界に反核の草の根を張らせた原動力だと自負していいと思う。そして今、広がりをさらに進める努力と並んで、これをどう定着させ、どう具体的な力に変えていくかが広島にとって、新たに大きな課題となったことを認識する必要がある。

草の根拡大の試みの一つとして広島・長崎両市長が新たに全国六百五十市に原爆投下時に合わせ黙とうを呼び掛けたのは意義深い。広島・長崎の悲劇を思い、犠牲者を悼む心こそ、すべての出発点であり、全国で一人でも多くの人が、この呼びかけにこたえてほしい。

運動の定着と力量化を図るためには、第一に多様な運動を認め合う原則の徹底、第二に運動の理論づけを急ぐことが必要である。

第一点が必要なのは、運動の広がりが必然的に意識レベルの分化を伴うためである。個々の問題に対する姿勢の差という小異を残して、「反核」の基本命題を優先する原則の徹底こそが、草の根を育て、実を結ばせる道であろう。反核運動の再生期とも言える時に当たり、この広島の立場をまず明確にしておきたい。

第二点は、運動の着実な前進のために欠かせぬ条件である。「核廃絶」の最終目標に至る中期、短期の到達目標、目標を実現するうえの障害、障害を取り除く可能性と手順を理論的に明示することは反核運動の新たな活力源となるに違いない。荒木市長が平和宣言でも提唱する「広島への国際平和研究機関の設置」は、ヒロシマの国際化と反核理論の確立のために有効な構想である。実現への努力を強く要望したい。また「反核都市連帯構想」も、交流によって理論を深め、具体的な反核行動を強める内容を目指してほしい。

広島が、反核運動の国内における目標を明らかにする努力も重要である。例えば、戦争責任を認め、国家補償精神に基づく被爆者援護法を制定する必要性を、この時点で改めて全国自治体に向け、大胆に提起することも必要ではなかろうか。

かみしめよ慰霊碑文

もう一つ忘れてならないのは、徴用、強制連行の結果、多数に被爆の運命を強いた朝鮮民族に対するヒロシマの「加害」の一面である。この問題への責任をはかした反核の訴えは、特に近隣アジア諸国に共感を呼び得ないことを厳しく自覚し、明確な意思表示をする勇気を広島は持ちたい。

「安らかに眠って下さい　過ちは繰返しませぬから」。この碑文を刻む原爆慰霊碑が除幕されてから、ことしは三十周年に当たる。数次にわたる「碑文論争」はあったが、この碑文が核時代に生きる者の原爆犠牲者に対する誓いであり、全人類的立場での核のない世界を実現する努力を意味するという認識は、市民、国民の間にかなり広く定着している。

三十七年目の八・六、慰霊碑除幕三十周年にあたり、ヒロシマの持つ意味、碑文が訴える精神を、改めて各自の心に刻み直したい。そして、碑文の誓いを現実のものとする努力は結局、核時代に生きるわれわれ一人一人が負う以外ないことを再確認し、粘り強い行動に一歩を踏み出す決意を新たにしたい。

天風録

岡山県の成羽町へ行ったら、役場から川向こうの小高い丘の上に「壮烈喇叭（らっぱ）手木口小平之碑」と刻まれた大きな石が立っていた。日清戦争で「死んでも口からラッパを放しませんでした」と、戦前の教科書で習った木口小平はこの町の出身だった▲話は一昨年にさかのぼるが、長野県の松本市で明治九年に建築された旧開智学校に展示されている教育資料を見ていたら、学芸員が「教科書の同じ題材も、時代とともに表現も違ってきます」と明治末期の修身の本を見せてくれた。それには「キグチ　コヘイ　ハ　ラッパヲ　クチニ　アテタ　ママ　シニマシタ」とあった▲「死んでも放さなかった」のと「クチニ　アテタ　ママ　シニマシタ」では同じ状況描写でも感じがかなり違ってくる。木口小平も次第に戦意高揚のモデルに使われてきたのがよくわかる▲三十七年前のきょう、そして翌日と、目のあたりに生き地獄を見た。一生、忘れられないだろう悲惨な、目をそむけたくなるような光景だった。しかし、それを表現しようとペンをとってみると、記憶は"線"につながらず、意外に"点"でしかない▲あの日は思い出す対象としてでなく、歴史の一ページに入ってしまったのだろうか。確かに、時間の経過とともに、そういう時代はやって来るに違いない。木口小平も死後硬直なのか、意志としてラッパを口から放そうとしなかったのかー目撃者ももういないだろう▲人間が人間の歴史を記す以上、誤解も錯覚も皆無というのは望めまい。それだけに、被爆の実態をどう歴史に残すかー現代を生きる者に課せられた義務ではなかろうか。

穀物の味で育った日本人の味感覚は、世界一だと思う。世界のどこにでもサントリーウイスキーがあり、ミズワリが世界の共通語となった日本の味は、これも世界一なんだろう。
網谷敏
ー広島県中央信用組合　理事長ー
網谷　敏
磨かれた男が選ぶウイスキー
サントリーリザーブ

市民のための小冊子
岩波ブックレット
定価各200円
A5判並製・平均64頁

NO.7
はだしのゲンはピカドンを忘れない
中沢啓治〔漫画家〕
ピカドン一閃ーー一九四五年八月六日、広島に落とされた原爆によって、父と姉弟を失ない、さらに妹と母も死んでいった。残された一少年は、忘れ得ないあの惨劇をやがてマンガに描き出し、戦争責任を問い続けてやまない。
はだしのゲンはピカドンを忘れない　中沢啓治

NO.8
広島・長崎でなにが起ったのかー原爆の人体への影響
飯島宗一〔名古屋大学学長　元広島大学学長〕
壊滅のあとに僅かに生き残った広島と長崎の医師たち。以来三七年におよぶ治療と研究の苦闘のうちに知りえた動かせない事実を、ここに示す。はたして私たちは、その被爆の実態と影響を正確に知っているといえようか。

NO.4
広島からオイロシマへ
大江健三郎〔作家〕
『ヒロシマ・ノート』以来、真摯に核時代の意味を問い続けてきた作家が、核戦争の危機が深まるいま、広島を再び訪ね、広島を発って反核の波の拡がるヨーロッパを旅した。その旅に作家が見たものは何か。日記体で綴る報告。

NO.5
女たちは核兵器をゆるさない
関屋綾子〔日本YWCA前会長〕
生命を生み、育て、守る母として、キリスト者として、平和運動を続けてきた著者は、平和の道に光はあると訴える。学習と行動の手引きとして、単独講和反対から現在までの婦人の歩みを編集。〈資料〉平和のための婦人の歩み

NO.6
「きけ わだつみのこえ」37年
大島孝一〔日本戦没学生記念会常任理事〕
敗戦から三七年。かつて、何十万の学生たちは学業半ばで、幾百万の農民たちは野良から戦場へと駆り出されていった。そしてその多くは、生きては再び還らなかった。現代の若者たちよ、この悲劇を二度と繰り返えすまい。

■核戦争の危機を訴える文学者の声明ー
NO.1
反核ー私たちは読み訴える
〈編集委員〉生島治郎・伊藤成彦・井上ひさし・大江健三郎
小田実・木下順二・小中陽太郎・中野孝次・夏堀正元

NO.2
核戦略の曲り角ー危機はここまできている
豊田利幸〔名古屋大学教授・物理学〕

NO.3
日本経済の実像とゆくえ
宮崎勇〔経済企画庁・顧問〕

NO.9
行革ー臨調答申をどう読むか
伊東光晴〔千葉大学教授〕

岩波書店
東京千代田一ツ橋　〒101
振替〈東京〉6-26240
お求めの岩波書店の出版物がお近くの書店の店頭にない場合はその書店にご注文下さい